

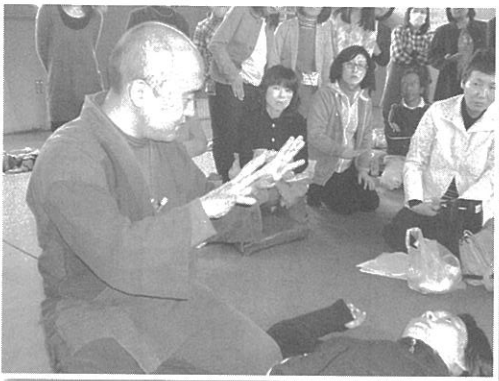
5  
分科会

## 健康教育

手のひらから感じる子どものこころ

～整体的子育て・整体救急法～

講演では、整体や病気のとらえ方、子どものからだどこころの変化について聞き、子どもが発する「注意の集中要求」を感じ、満たすことが心と体を育てるうえで大切であることを学んだ。実習では、普段意識をしない体の不調を感じるものや、実際に教育現場で活用できる「整体的救急法」を教えていただいた。救急法は特に丁寧に教えていただき、参加者もその手当の方法を体験することができた。今後すぐに活かせるものばかりで、参加者は熱心に、また積極的に研修を積みむことができ、大変有意義な時間となった。



6  
分科会

## 食教育

日本の食文化を伝えていく

～奥越で醸されてきた調味料を味わおう～

日本の代表的な発酵調味料の一つである「醤油」と「酢」について、「香り体験」や「きき醤油・きき酢」体験を行った。児童向けの「しょうゆ博士の出前授業」の内容を実際に体験でき、授業や学校行事への活用を検討する参加者もあった。参加者のほとんどが栄養教職員以外で、食教育への関心の高さがうかがえた。和食文化が注目されていることや地元産の産物ということ、ふるさと学習やキャリア教育の可能性も考えられるという感想もあった。



7  
分科会

## 教育相談と 心の問題

たった三十秒でできる

「色」のコミュニケーション!

色の歴史や絵本を使った色の残存現象体験をして、色への関心を高めることができた。自分認識の一つとして「現在・過去・未来の自分」や「今の自分の気持ち」を色で表現するなど、色を通じて参加者同士が和やかな雰囲気でのコミュニケーションをとることができた。自分の気持ちを上手に表現できない子どもに「今の気持ちは何色?」と問いかけるなど、コミュニケーションツールの一つとして色カードの利用方法を学ぶことができた。



8  
分科会

## 特別支援教育

障害理解教育の指導と取り組み

はじめに小浜支部における取り組みとして、特別支援学級担任を中心として各校が情報交換を進めていくことで、障害理解教育が人権教育の一つとして位置づけされるようになったことが報告された。次にビデオを通してADHDや自閉症の発達障害についての理解を深め、子どもへの具体的な支援方法を参加者が体験した。参加者からは、「障害理解教育のための取り組みやアイデアを学ぶことができた。」「学習支援のヒントを得ることができ有意義だった。」という感想が寄せられた。

